

症例詳細報告書（記載例2）

受験者氏名： ○○ △△

※個人が特定できるような氏名、イニシャル、ID、生年月日、住所は記載しないこと。

報告書番号	2		
施設名	△△クリニック	検査年月日	2020 年○月○日
検査目的	結節精査	臨床診断 (主訴)	濾胞性腫瘍
超音波検査所見の要約と超音波診断			
甲状腺左葉上部に 19.6×9.2×31.3mm の形状ほぼ整、境界明瞭平滑、内部均質、低エコー結節を認める。微細高エコーは伴わず、境界部低エコー帯は整である。内部血流は豊富、エラストグラフィ Grade3、Strain Ratio1.05 である。超音波画像上は、境界部低エコー帯を伴うことから濾胞性腫瘍を考える。			
超音波ガイド下穿刺診断の適応評価（JABTS 甲状腺超音波診断ガイドブック改訂第3版 V 診断の進め方/C. 結節性病変等を用いた判定基準を記載する）			
最大径 31.3mm の充実性病変である。 甲状腺結節（腫瘍）超音波診断基準では、すべての超音波所見において良性所見を呈する。 しかし、20.1 mm 以上の充実性病変であることから、FNAC の適応と判断し、穿刺を施行した。			
細胞診・組織診の結果（細胞所見等も含めて記載）			
細胞診：良性 リンパ球、好中球を背景に、異型に乏しい濾胞上皮が出現しています。軽度に濃染する細胞が混在しますが、良性の範疇と推測された。 病理組織診断；Adenomatous nodule 肉眼的に境界明瞭な結節部では、組織学的には線維性被膜をほぼ欠いた境界明瞭な結節を認めた。結節内では、小型濾胞細胞が密に増生していた。濾胞上皮の核は類円形で軽度腫大しており、顆粒状の核クロマチンを示していた。浸潤性の発育パターンは見られず、核の溝、スリガラス状核、核内封入体は確認されなかった。			
最終診断			
腺腫様甲状腺結節			

日本乳腺甲状腺超音波医学会甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医認定試験を受験する基準に十分な抄録であることを認めます。

日本乳腺甲状腺超音波医学会甲状腺超音波ガイド下穿刺診断専門医氏名（自署）

印

写真貼付欄

※写真は、はがれないように貼付すること。あるいは、電子画像をコピー＆ペーストで貼り付けてもよい。

※個人が特定できる情報（氏名、ID）は、必ずマスキングすること。

※上記診断と評価の根拠となる画像を1枚あるいは複数枚、貼付すること。

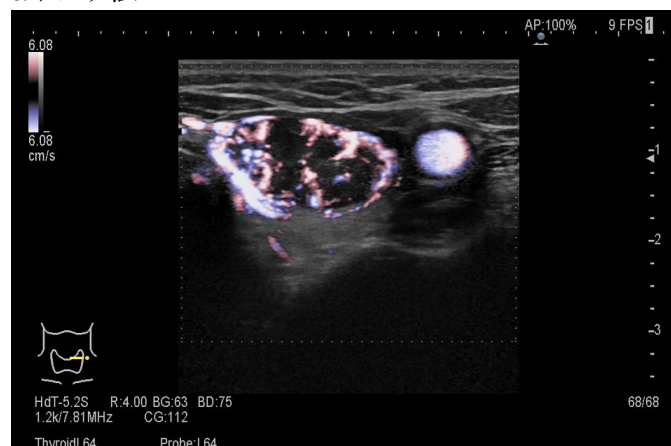
a.左葉横断像



b.左葉縦断像



c.ドプラ法



d.エラストグラフィ

